

「屋外タンク貯蔵所の保安検査の周期に係る調査検討会（第5回）」議事概要

1. 開催日時 平成22年12月16日（木）
2. 開催場所 三番町共用会議所 第3会議室
3. 出席者 亀井座長、大塚委員、黒瀬委員、次郎丸委員、土田委員、峯委員、森委員、山田委員
4. 配付資料 資料5-1 屋外タンク貯蔵所の保安検査の周期に係る調査検討会（第4回）議事録（案）  
資料5-2 屋外タンク貯蔵所の保安検査の周期に係る調査検討会報告書（案）  
資料5-3 屋外タンク貯蔵所の保安検査の周期に係る調査検討会報告書について（案）  
資料5-4 旧法第二段階基準タンクの検査期間について

5. 議事

(1) 前回議事概要（案）の確認

(2) 屋外貯蔵タンクの内面コーティングの耐用年数に関するワーキンググループ検討結果報告（案）について

(委員) 温度勾配浸漬試験の加速倍率はわかっているか。

(主査) 最後の検量線で検討したが得られなかった。他の塗料で水門に対する値はあるが、タンクの防食塗料の加速倍率は分かっていない。

(委員) 今回の促進試験の成果としては、400 $\mu$ mの場合はかなりばらつきがあるが、700 $\mu$ mの場合はばらつきが小さい結果であったということか。

(主査) その通り。一方、26年というのは現場の実績から得られた値である。

(委員) 現場の実績と試験結果から推測して700 $\mu$ mであれば耐用年数として26年が大丈夫と結論したということか。

(主査) その通り。

(委員) 海外ではこの関係の知見はないのか？

(委員) 余り聞いたことがない。

(委員) 実際のタンクでは、一つのタンク内でもいろいろな膜厚があるのではないのか。

(主査) その点も勘案して、膜厚分布についても規定している。

(委員) 33ページの腐食速度の分布で3回目は明らかに分布が異なる。この理由はどう考察されているのか。

(主査) コーティングの劣化の他、過去の開放時にコーティングを傷つけてしまったものの影響が出ているのではないかと考えている。2回目では出ていないが、遅れて出てくるものがあると考えている。

(3) 最終報告書（案）について

(委員) コーティングに関して表を見ると指針に則って施工されているかどうか規定されていないように見えるが。

(事務局) 表の左側に一定の施工条件で品質が確認された材料を用いたガラスフレークコーティング」とされており、これが指針を指す。

(委員) 概要の案の「最大値の確度は1.6～3.8倍」という表現は分かりにくい上に、技術的に言って正確性に掛けるのではないか。

(事務局) より一般的な表現に改める。

(4) その他 (旧法第二段階基準タンクの検査期間について)

(委員) 今後検討するという事か。

(事務局) これら項目についてデータがあれば検討ができる。データが無いようであれば実態調査から始める必要がある。

(委員) 難しいことは難しいとした上で、評価のために調査していくことは意味があるのではないか。

(委員) 耐震性という観点では、基礎の性能の問題もあり、第2段階基準のタンクについては乗り越えなければならない壁は高い。技術的に材料を蓄積してクリアしていく姿勢が必要ではないか。